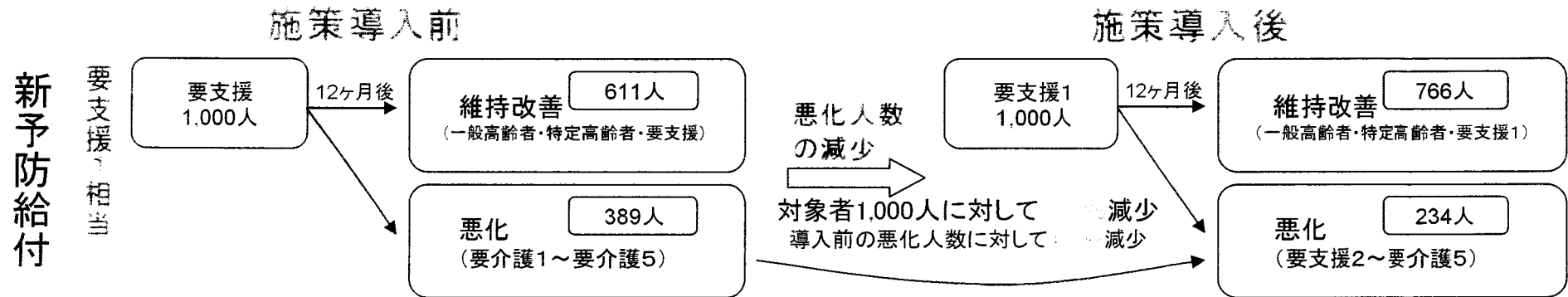
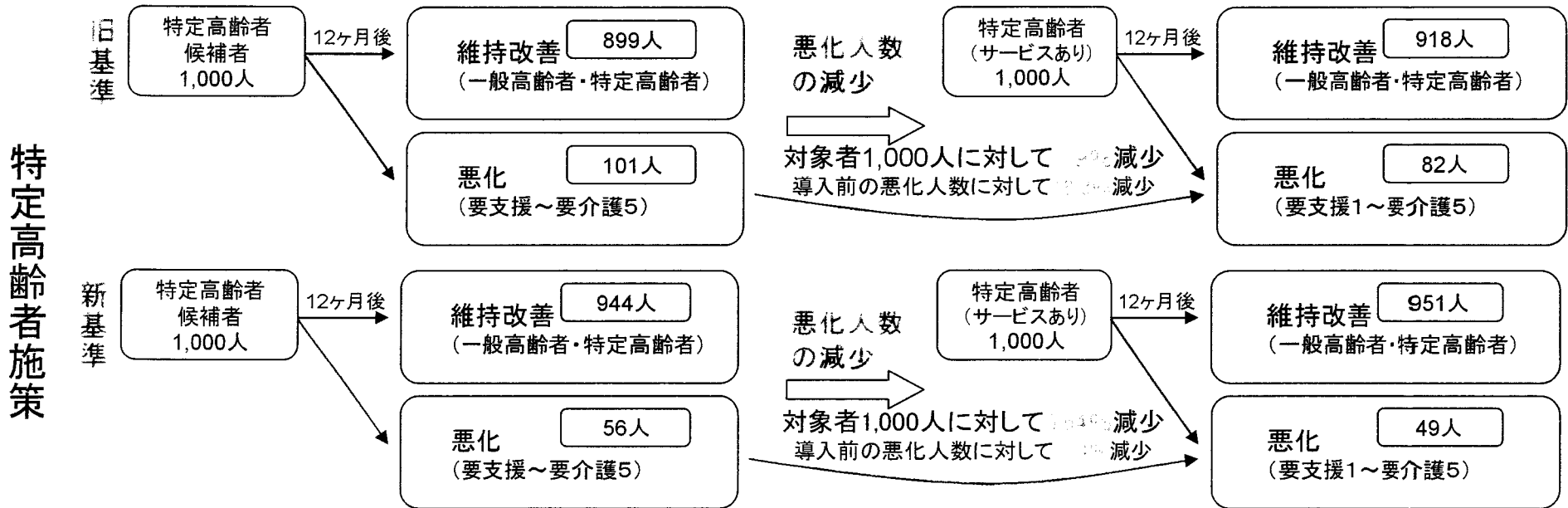


# 継続的評価分析支援事業データにおける 属性等による介護予防効果の違いに係る 分析について

# 「要介護度が悪化した者の発生率」を用いた 介護予防サービスの効果分析の結果について(概要)



1,000人を1年間追跡(12,000人月)した場合、以下の結果となり、介護予防効果が認められた。  
対象者1,000人に対して15.5%(155人)減少し、コントロール群の悪化人数(389人)に対して40%(155人)減少した。  
※性・年齢調整を実施



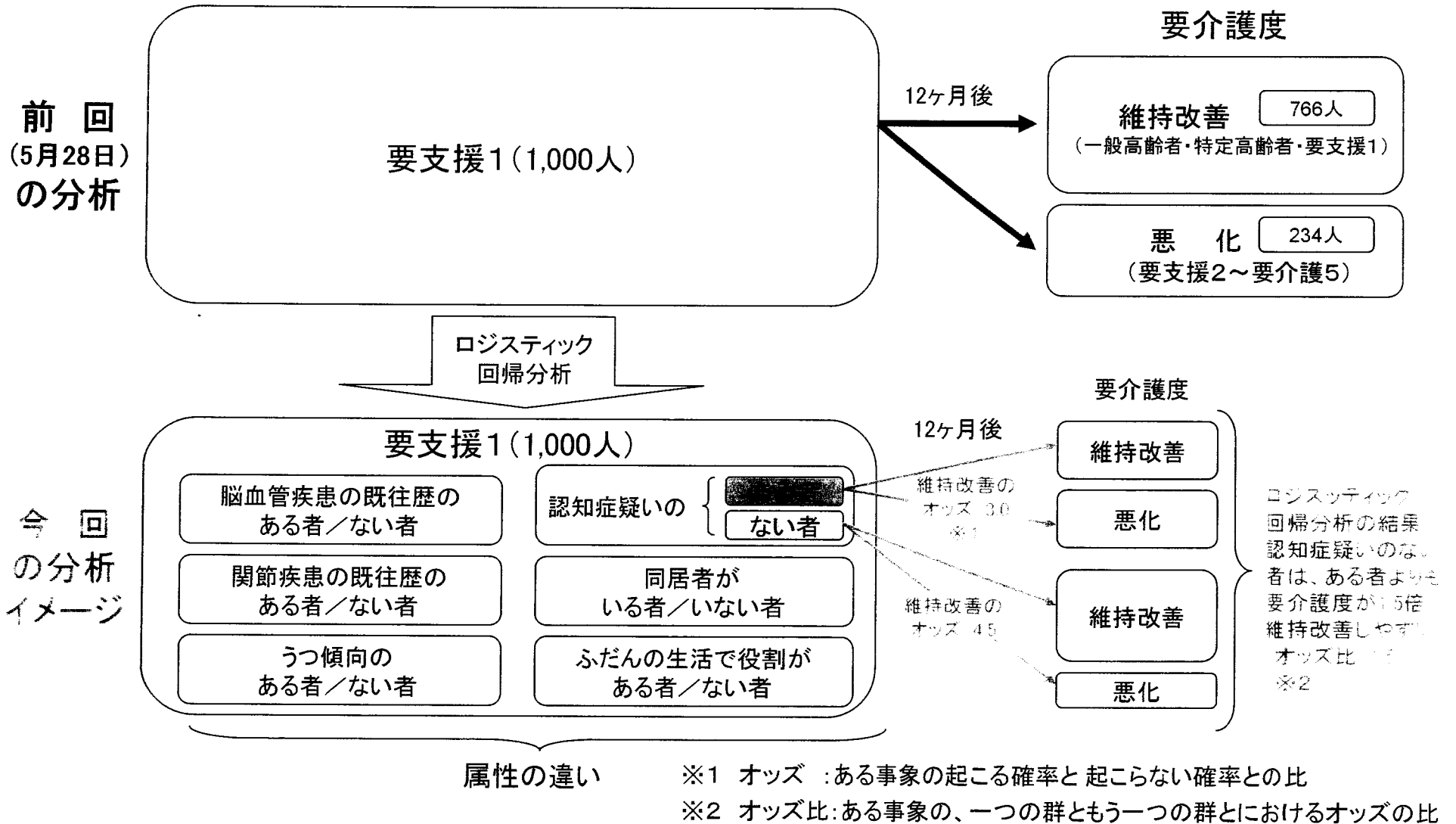
1,000人を1年間追跡(12,000人月)した場合、以下の結果となり、介護予防効果が認められた(※)。  
旧基準では、対象者1,000人に対して1.9%(19人)減少し、コントロール群の悪化人数(101人)に対して18.8%(19人)減少した。  
新基準では、対象者1,000人に対して0.64%(6人)減少し、コントロール群の悪化人数(56人)に対して11.4%(6人)減少した。  
※統計学的有意差は認められなかった

はじめに

— 分析に当たって —

# 今回の分析イメージについて

<要支援1の者を例とすると>



サービスを受ける者の属性等の違いによって、介護予防効果がどれくらい違うのかを分析  
 市町村や事業所等が、より効率的・効果的に介護予防を実施できる

# 対象者について

継続的評価分析支援事業データベース  
(平成19年1月1日～平成20年7月31日までに登録)

N=18,181

除外

- ・40歳未満or106歳以上 N= 32
- ・要介護認定等の状況に未回答 N=315

N=17,834

除外

- ・サービス開始後3か月以上経ってから調査開始 N=8,953
- ・経過観察データなし N=1,245

今回の分析対象者

N=7,636

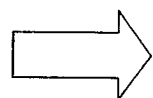
<分析対象者の内訳>

|                         |     | サービスを終了<br>または中断した者 | サービス<br>継続中の者 | 計     |
|-------------------------|-----|---------------------|---------------|-------|
| 観察期間が<br>12ヶ月未満<br>のデータ | 3ヶ月 | 969                 | 1,291         | 2,260 |
|                         | 6ヶ月 | 784                 | 1,071         | 1,855 |
|                         | 9ヶ月 | 334                 | 724           | 1,058 |
| 観察期間が12ヶ月<br>以上のデータ     |     | 479                 | 1,984         | 2,463 |
| 計                       |     | 2,566               | 5,070         | 7,636 |

# 分析に当たっての留意事項(課題1)

## 課題1

サービスを終了または中断した者や解析データの登録終了時点でサービス継続中の者の取扱いをどうするか。



○対象者のうち、12ヶ月後までに一般高齢者に改善したり、要介護状態に悪化する等により終了または中断し、その時点以降のデータが入手できなかった者については、除外しないこととし、終了または中断した時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

○対象者のうち、解析データの登録終了時点(平成20年7月31日)にサービス継続中の者については、除外しないこととし、解析データの登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

# 課題1

## サービスを終了または中断した者や解析データの登録終了時点にサービス継続中の者の取扱いについて

### ○サービスを終了または中断した者の取扱い

対象者のうち、12ヶ月後までに一般高齢者に改善したり、要介護状態に悪化する等により終了または中断し、その時点以降のデータが入手できなかった者については、除外しないこととし、終了または中断した時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

#### 【理由】

- ① サービスを受ける期間により対象者の基本特性が大きく異なっている。(※1)
- ② サービスを受ける期間が12ヶ月未満の者5,173人のうち、12ヶ月未満で終了または中断した者2,087人(40.3%)について分析すると、サービス利用を再開した者は、わずか8人(0.4%)であった。したがって、終了・中断者のほぼ全員(99.6%)が、終了または中断した時点の状態を維持していたと考えることができる。

### ○解析データの登録終了時点にサービス継続中の者の取扱い

対象者のうち、解析データの登録終了時点(平成20年7月31日)にサービス継続中の者については、除外しないこととし、解析データの登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。

#### 【理由】

今回の分析は、「維持・改善」をロジスティック回帰分析のエンドポイントとしていることから、介護予防の効果が発現して改善した場合にも、分析の結果は変わらないと考えることができる。

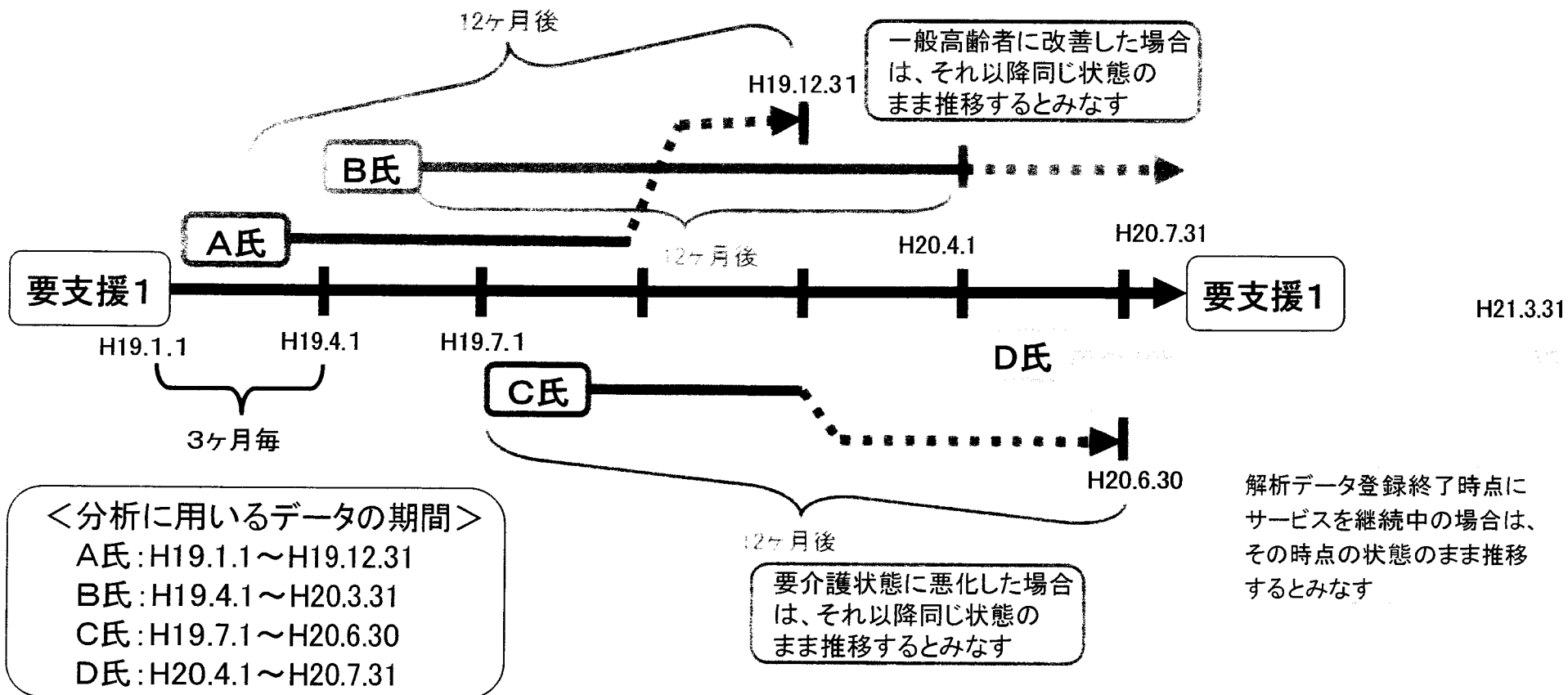
※1 サービスを受ける期間ごとの対象者の基本特性の違い

|                          | 特定高齢者      |            |            |            |        | 要支援1       |            |            |            |        | 要支援2       |            |            |            |        |       |
|--------------------------|------------|------------|------------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|--------|-------|
|                          | 3ヶ月        | 6ヶ月        | 9ヶ月        | 12ヶ月以上     | P値*    | 3ヶ月        | 6ヶ月        | 9ヶ月        | 12ヶ月以上     | P値*    | 3ヶ月        | 6ヶ月        | 9ヶ月        | 12ヶ月以上     | P値*    |       |
| 人数(人)                    | 800        | 425        | 135        | 323        |        | 609        | 607        | 430        | 1,056      |        | 851        | 823        | 493        | 1,084      |        |       |
| 性別(%)                    | 男性         | 28.6       | 21.9       | 25.2       | 11.2   | <0.001     | 27.6       | 24.6       | 25.6       | 21.1   | <0.001     | 26.6       | 28.0       | 25.2       | 22.6   | 0.048 |
|                          | 女性         | 71.4       | 78.1       | 74.8       | 88.9   |            | 72.4       | 75.5       | 74.4       | 78.9   |            | 73.4       | 72.1       | 75.9       | 77.4   |       |
| 年齢<br>(平均年齢(SD))         | 78.0 (6.4) | 77.9 (6.1) | 80.4 (6.4) | 81.2 (5.5) | <0.001 | 81.3 (6.5) | 81.2 (6.6) | 81.4 (6.5) | 81.2 (6.3) | 0.954  | 81.3 (8.0) | 81.5 (7.7) | 81.3 (7.1) | 80.7 (7.6) | 0.110  |       |
| 基本チェックリスト得点<br>(平均点(SD)) | 8.4 (3.9)  | 8.3 (4.1)  | 10.0 (4.7) | 10.5 (3.7) | <0.001 | 10.8 (4.3) | 10.5 (4.1) | 10.2 (4.0) | 9.9 (3.9)  | <0.001 | 12.3 (3.9) | 11.9 (4.1) | 11.8 (3.8) | 11.5 (3.9) | <0.001 |       |

\* 性別、要介護認定度、障害高齢者の日常生活自立度は $\chi^2$ 検定、年齢、基本チェックリスト得点はANOVAにより算出

# 課題1 サービス後の推移の分析に用いるデータについて

＜要支援1の者を例とすると＞



調査開始時と12ヶ月後のデータ(※)を比較して推移をみる。  
(要介護度、基本チェックリストの得点、主観的健康度等の各指標)

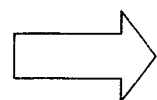
- ※1 観察後12ヶ月後までに特定高齢者または一般高齢者に改善、要介護状態に悪化等した場合は、それ以降同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。
- ※2 観察後解析データ登録終了時点でサービス継続中の場合は、解析データ登録終了時点と同じ状態のまま12ヶ月後まで推移するとみなす。



# 分析に当たっての留意事項(課題2)

## 課題2

分析(ロジスティック回帰分析)を行うにあたり、サービスの種類(介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション等)を説明変数(調整変数)として用いるか。



受けるサービスの違いによって、対象者の属性が大きく異なっており、異なるサービスの利用者間で、本調査で把握されていない属性の違いが存在していることが強く示唆されることから、サービスの種類(介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション等)を説明変数(調整変数)として用いることは適当ではない。

## 課題2

# 分析に当たってサービスの種類を 説明変数に用いることの是非について

○受けているサービスの種類によって、属性が大きく異なると考えられる。



受けるサービスの違いによって、対象者の属性が大きく異なっており、異なるサービスの利用者間で、本調査で把握されていない属性の違いが存在することが強く示唆される。



ロジスティック回帰分析(※1)を行うにあたり、サービスの種類(介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション等)を説明変数として用いることは適当ではない。

|                           | 介護予防通所介護、<br>介護予防通所リハビリテーション<br>又は介護予防訪問介護<br>を利用している者(※2)<br>N=5,438(単位:%) | 左記のサービスを利用していない者<br>N=284(単位:%) |
|---------------------------|---|---------------------------------|
| 基本チェックリスト(平均点±SD)         | 11.1±4.2点   | 12.1±4.2点                       |
| 疾患既往歴あり                   |   |                                 |
| 脳血管疾患                     | 18.9  | 16.9                            |
| 関節疾患                      | 25.1  | 24.7                            |
| 認知症                       | 5.0   | 2.1                             |
| 骨折・転倒                     | 18.7  | 18.7                            |
| 高齢による衰弱                   | 8.6   | 7.0                             |
| GDS15(11点以上)              | 10.4  | 13.5                            |
| 長谷川式簡易知能評価<br>スケール(20点以下) | 22.2  | 19.3                            |
| 認知的活動(14点以下)              | 43.5  | 43.2                            |
| ふだんの過ごし方(役割)なし            | 68.4  | 73.2                            |
| 同居者なし                     | 36.7  | 13.0                            |

### ※1 ロジスティック回帰分析

ある事象の発生(目的変数)が、その現象の発生を説明するために観測された変数(説明変数)によってどれくらい説明できるのかを定量的に分析する方法。

### ※2 介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション又は介護予防訪問介護以外のサービス

- ・介護予防福祉用具貸与
- ・介護予防短期入所生活介護
- ・介護予防訪問看護 等

- ・受けているサービスの種類によって、対象者の属性が大きく異なる。
- ・把握していない属性の違いが存在している可能性が高い。